

焼岳の火山活動解説資料（平成 23 年 7 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

2011 年 3 月 11 日に発生した「東北地方太平洋沖地震」以降、焼岳周辺では地震活動が活発な状況となっていました。その後、地震活動は低下してきています。
火山性微動の発生等、直接噴火活動に関連するような変化は認められておらず、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 23 年 3 月 31 日に噴火警戒レベルの導入に伴い噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警戒事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況

山頂部や岩坪谷には従来から噴気孔がありますが、噴気の異常は確認されていません。

・地震活動（図 2、図 3※）

2011 年 3 月 11 日に発生した「東北地方太平洋沖地震」以降、山頂直下～北西麓の浅い所での地震活動が活発化しましたが、その後、地震活動は低下してきています。また、7 月 3 日 21 時 35 分に焼岳の北北東を震源とするマグニチュード¹⁾ 2.6 の地震が発生し、岐阜県高山市で震度 1 を観測したほか、7 月 4 日に同領域で地震が一時的に増加しましたが、その後低下してきています。
火山性微動や低周波地震は観測されませんでした。

1) マグニチュードは地震の規模を示します。資料中のマグニチュードは暫定値で、後日変更することがあります。

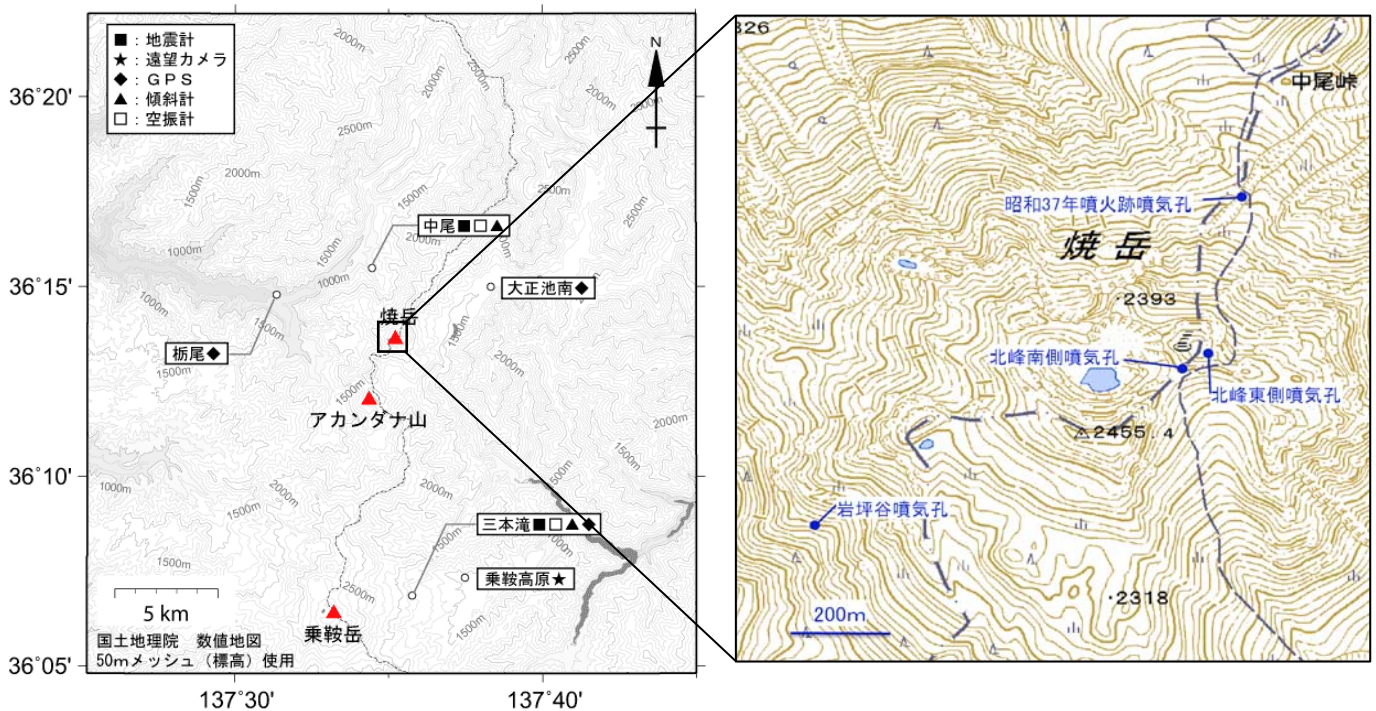


図 1 焼岳 気象庁の観測点配置及び噴気孔の位置

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 8 月分）は平成 23 年 9 月 8 日に発表する予定です。

※この記号の資料は気象庁のほか、京都大学、名古屋大学、東京大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『2 万 5 千分 1 地形図』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

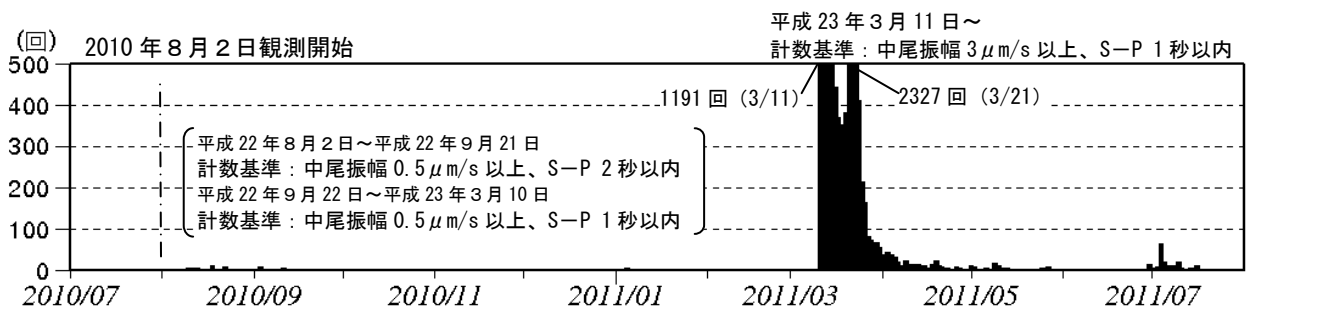


図2 焼岳周辺の日別地震回数 (2010年7月1日~2011年7月31日)

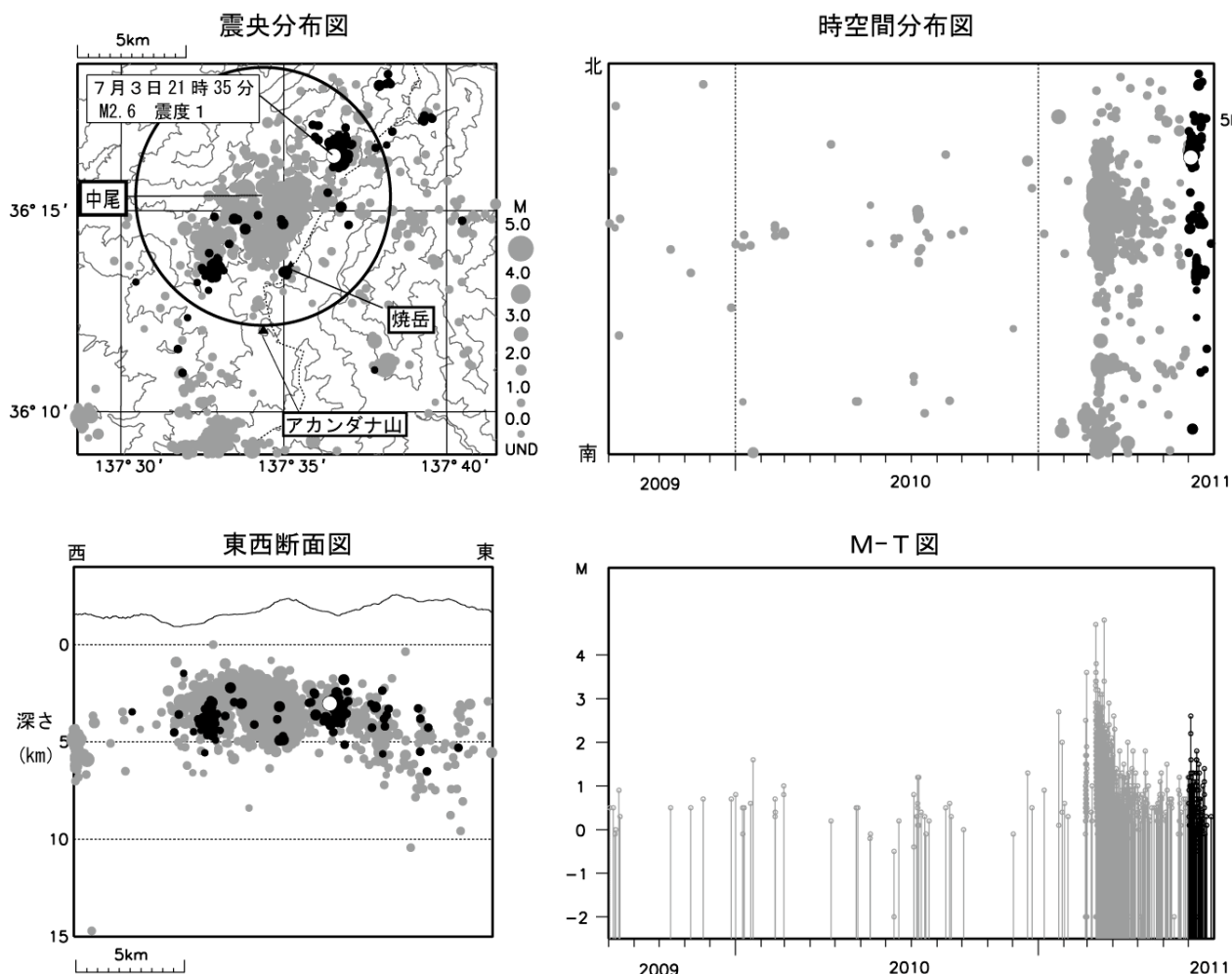


図3※ 焼岳 広域ネットによる山体・周辺の地震活動 (2009年8月1日~2011年7月31日)

● : 2009年8月1日~2011年6月30日

● : 2011年7月1日~7月31日

震央分布図中の円は図2の計数対象地震 (中尾でS-P時間1秒以内) のおよその範囲を示します。

M (マグニチュード) は地震の規模を表します。

3月~5月分は一部未処理の期間があります。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。